

受験番号	
------	--

平成30年度 日本赤十字秋田看護大学 入学試験
(推薦入学試験、社会人・学士等入学試験)

応用力試験問題

試験時間 90分(9時～10時30分)

試験開始の合図があるまではこの冊子を開いてはいけません。解答開始後、試験問題・解答用紙に受験番号を記入してください。

注意事項

1. 試験中に、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合や、質問がある場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
2. 配布された問題冊子と解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
3. 試験終了後、指示があるまでは退室してはいけません。

問題Ⅰ. 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

「わたしは何のためにここにいるのだろうか?」「こんなわたしでもまだここにいてもいいの?」……。自己の存在理由をめぐるそんな問いに、幼いと言ってもいいような年頃からさらされているというのは、悲痛なことである。

このような問いは、かつては、寝たきりになって他人に世話をしてもらわなければならない、何の役にも立っていない(と思ひ込む)、そんな高齢者が抱え込むものであった。あるいは、仕事や生活にひどい違和を感じて、人生の道に迷う、そんな大人たちが抱え込むものであった。

ところが、現代社会では、こうした問いに、十代どころか小学生のあいだからさらされている。じぶんでも理由がよく分からない自己否定の感情、ないしは焦りやあきらめを、内に深くため込んでいる。

一方、かつてアイデンティティ・クライシス(同一性の危機)と呼ばれた自己証明への焦りは、そののちもずっと、ひとびとを苛(さいな)むことをやめていない。「自分探し」や「自己啓発」といった言葉を口にしながらひとびとはさまよい、「自己決定」や「自己責任」という名の強迫(ときには抵抗の意識)も、強まるばかりだ。言ってみれば、だれもが「アイデンティティ」への問いに苛まれる社会……。

が、これは異様な光景なのだろうか。

「近代社会」においては、ひとはみな同じ「一」としてある。どんな家系、どんな職業、どんな階層の出であっても、どの性に生まれても、そうした出自にかかわらず、個人として尊重されるという、平等の理念をもとにつくられてきた。その個人は、それぞれがみずからの考えにそって生き方を選ぶ、そういう自由への権利をもつものとされた。

そうすると当然、じぶんがだれかはじぶんがこれまでなしてきた選択の結果であるということになるが、実際にはむしろ、みずから選択するというよりも選択させられてきたという思いのほうが強い。高度な社会システムが複雑にからみあうこの巨大な社会のなかでは、ひとびとはこれらのシステムにぶら下がり活動するしかない。業務につくひとも、そもそも資格と能力のある人だったらだれでもよいわけで、各人はいわばいつでも交換可能な存在とみなされる。だからこそ、じぶんがじぶんであることの証明がじぶんに対して必要になる。「わたしは何のためにここにいるのだろうか?」という問いは、その意味で、「近代社会」ではだれもが潜在的なかたちで内に抱え込まざるをえないものなのだ。

何をするにも資格と能力を問われる社会というのは、「これができたら」という条件つきでひとが認められる社会である。裏返していうと、条件を満たしていなかったら不要の烙印(らくいん)を押される社会である。そのなかで、場合によっては、学校や家庭のなかでも、ひとはいつもじぶんの存在が条件つきでしか肯定されないという思いをつのらせてゆく。じぶんが「いる」に値するものであるかどうかを、ほとんどポジティブな答えがないままに、恒常的にじぶんに向けるようになる。会社で、学校で、そして家庭のなかでも。

ひとびとが公式の関係をはみ出たところで、何の条件もつけないでたがいにその存在を肯定しあえるような「親しい」関係を求めるのはそういうわけである。鬱屈(うっくつ)した気分のなかで、男も女も、そして子どもも、じぶんを肯定できないという疼(うず)きに苛まれている。そして、何もできなくてもじぶんの存在をそれとして受け入れてくれるような、そういう愛情にひどく渴(あ)いている。「つながってほしい」「ぬくもりがほしい」という気持ちから、じぶんをこのままで肯定してくれる友だちや恋人を求めてゆく。

が、たがいが存在をそっくり肯定しあうような関係は重すぎる。裏返していえばそれは、他人にこのじぶんの存在をそっくり肯定してほしいという、深い相互依存の関係でもあるからだ。そのひとがいないと生きてゆけないという、逆の危機にひとを誘い入れるからだ。

いま、わたしたちにほんとうに必要なのは、そういうねっとり密着した関係ではなく、距離をおいてたがいに肯定しあう、そういう差異を前提とした関係なのだろう。〈わたし〉という個は自己自身との関係のなかでではなく、〈わたしたち〉の社会的な組織のなかで編まれつつ、いわばその特異な点としてかたちづくられる。他者たちによる承認はそこで大きな役割をはたすが、受け身でそれを待っていれば、相も変わらず依存のなかにしかいられない。

それよりも、〈わたし〉という小さく壊れやすい存在が〈わたしたち〉というつながりのためにいったい何ができるか、その寄与のあり方をみずから模索することが必要だとおもう。家庭であれ地域社会であれ、じぶんがはたしうる小さな「役割」を考えること、どうしたらたしかな父に、母に、隣人に、そして市民になりうるかを考えなおすことから始めることが重要かとおもう。

(鷲田清一 『大事なものは見えにくい』 2012年)

以下の設問1～5に答えなさい。設問ごとに、解答の選択肢として1～8あります。この中から正解と思われる番号を1つだけ選び、解答用紙に記入すること。2つ以上記入すると不正解になります。

設問1 自己の存在理由をめぐる問いは誰が抱えるか。

- a. 高齢者
- b. 大人
- c. 小学生

1. a 2. b 3. c 4. a, b 5. a, c 6. b, c 7. a, b, c 8. 該当なし

設問2 じぶんにしかないものを必死に探し求めるようになるのはなぜか。

- a. じぶんがじぶんであることの証明がじぶんに対して必要になるから。
- b. 「何をしてきたのか」「何ができるか」でひとの存在価値が測られるから。
- c. 生まれた環境によって人生の輪郭がほぼ決まっているから。

1. a 2. b 3. c 4. a, b 5. a, c 6. b, c 7. a, b, c 8. 該当なし

設問3 条件つきでひとが認められる社会とはどのような社会か。

- a. 何もできなくてもじぶんの存在を受け入れてくれるような社会
- b. 何をするにも資格と能力を問われる社会
- c. 条件を満たしていなかったら不要の烙印を押される社会

1. a 2. b 3. c 4. a, b 5. a, c 6. b, c 7. a, b, c 8. 該当なし

設問4 いまわたしたちがほんとうに必要な関係とはどんな関係か。

- a. ねっとりとした密着した関係
- b. たがいが存在をそっくり肯定しあうような関係
- c. 距離をおいてたがいに肯定しあう、そういう差異を前提とした関係

1. a 2. b 3. c 4. a, b 5. a, c 6. b, c 7. a, b, c 8. 該当なし

設問 5 〈わたし〉という存在が〈わたしたち〉というつながりのために必要なことは何か。

- a. じぶんがはたしうる小さな「役割」を考えること。
- b. 他者による承認を待っていること。
- c. どうしたらたしかな市民になりうるかを考えなおすこと。

1. a 2. b 3. c 4. a, b 5. a, c 6. b, c 7. a, b, c 8. 該当なし

問題Ⅱ. (1)～(5)の下線部のひらがなを漢字になおし(必要な場合は送り仮名を含む)、また(6)～(10)の下線部の漢字の読みを解答用紙に書きなさい。

問題Ⅲ. 看護師が患者さんに接する際に大切だと思うことについて、あなたの考えを述べなさい。

(横書きで400字以内とする)

受験番号	
------	--

平成 30 年度 日本赤十字秋田看護大学 入学試験（推薦入学試験、社会人・学士等入学試験）

応用力試験 解答用紙

問題Ⅰ. 設問ごとに、正解と思われる選択肢番号を1つ書きなさい。

設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5

問題Ⅱ. (1)～(5)の下線部のひらがなを漢字になおし(必要な場合は送り仮名を含む)、また(6)～(10)の下線部の漢字の読みを書きなさい。問題は解答用紙にあります。

- (1) ほがらかな笑い声 (2) 大きな荷物をかつぐ
(3) 風呂の湯がぬるい (4) 緊張がほぐれる
(5) 憲法をはっふる (6) 心が千々に乱れる
(7) 悪の権化 (8) 帽子を目深にかぶる
(9) 数寄屋づくりの茶室 (10) 機を織る

(1) ほがらか	(2) かつぐ	(3) ぬるい	(4) ほぐれる	(5) はっふる
(6) 千々	(7) 権化	(8) 目深	(9) 数寄屋	(10) 機

受験番号	
------	--

問題Ⅲ. 看護師が患者さんに接する際に大切だと思うことについて、あなたの考えを述べなさい。
(横書きで400字以内とする)

200

400